

【症例】 39歳、男性

【主訴】 上腹部不快感

【既往歴】 不安神経症

【現病歴】

2016年8月中旬より上腹部の不快感を自覚した。9月に近医に受診し、上部消化管内視鏡検査を行ったところ異常を指摘され、当院に紹介受診した。

【現症】 特記すべき異常所見なし

【血液検査】 異常所見なし

【MDL】

胃全体に多発する隆起性病変を認め、隆起の立ち上がりはなだらかであり、SMT様隆起を疑う。一部に隆起頂部に陥凹あり。

【上部消化管内視鏡検査】

胃全体に多発するSMT様隆起があり、一部に頂部に陥凹あり。隆起のNBI拡大像では拡大した腺管構造を認めるのみで明らかな不整は認めず。

【EUS】第3層を中心に低エコー腫瘍あり。

【病理診断】WHO(2008)

Diffuse large cell lymphoma,

The presence of accompanying MALT lymphoma, MALT1 translocation-neg.

【画像所見】造影CT、PET-CTにて胃小弯側、傍大動脈リンパ節腫大あり

【治療】Lugano国際会議分類 Stage II -2 化学療法(R-CHOP)

